

第2次黒部総合振興計画審議会

第5回第2部会【産業・観光】

議事概要

日時：平成29年11月2日（木）10:00～11:55

場所：黒部市役所 203 会議室

出席者：委員 7 名（欠席 1 名）、専門委員 1 名（欠席なし）

幹事 1 名（欠席なし）、計画主任 4 名（欠席なし）、事務局 3 名

次第

1. 開会
2. 部会長あいさつ
3. 報告事項
 - （1）前回審議会以降の経過について
 - （2）黒部市議会第2次総合振興計画検討特別委員会での意見・提言
 - （3）前期基本計画に関するパブリックコメントの実施結果について
4. 協議事項
 - （1）前期基本計画（案）について
5. その他
6. 閉会

主な発言（検討）内容

○：委員からの質問・意見、●：事務局の意見・回答

部会長あいさつ

○部会長：月初めで何かと忙しい中、出席いただき感謝する。前回の審議会では基本構想に関する答申案および基本計画中間案をとりまとめ、8月29日に秦会長より市長へ答申された。その後、基本構想（案）については9月議会に答申され、議決された。基本計画については、中間報告としてパブリックコメントを実施している。今回は最後の部会であり、今回の意見を踏まえて11月16日の審議会で、最終答申案を確認する予定である。みなさんのご協力をお願いしたい。なお、前回の全体部会で出された資料の観光交流拠点は、石田が抜けていた。その後、追記していただいたことをご報告させていただく。

報告事項

(資料1：前回審議会以降の経過について、資料2：黒部市議会第2次総合振興計画検討特別委員会での意見・提言について、資料3：前期基本計画に関するパブリックコメントの実施結果について、事務局より説明)

(委員からの意見なし)

協議事項

(資料4：前期基本計画(案)について、事務局より説明)

(2-1 農林水産業の振興について)

- A委員：黒部米と黒部産米の違いは。
- 計画主任：黒部米は地域団体商標であり、一般的には黒部で作った米のことは黒部産米となるが、「黒部米」の呼称は広く認知されているということで、表記を「黒部産米」から「黒部米」に変更させていただいた。
- A委員：農協だけが扱っている米(黒部米)がすべてではない。
- 計画主任：黒部米は商品として流通に乗っており、代表的な認知されている商品として、今回使用している。
- B委員：県内にいろいろとプライベート米はあるが、計画の中でどう表記するかだけを考えれば良いのではないか。県内初の商標であり、インパクトを重視するのならば「黒部米」とすべきであり、一団体を優遇していると思われるなら「黒部産米」とすればよい。
- A委員：黒部産米としないと流通させることができない現状がある。
- C委員：富山県産米と裏に記載しないと通らない実情がある。農協の集積率はどれくらいか。7割程度か。
- D委員：7割程度である。
- B委員：黒部米は一般的に認知された商標であるが、一方で干しいもの「黒部はるか」は一個人の銘柄であり、適切かという考え方もある。
- 部会長：例えば「呉羽梨」はどのような位置づけか。
- B委員：商標をとっていない一銘柄である。
- E委員：黒部米は全てコシヒカリか。
- D委員：黒部米はコシヒカリだけでなくも構わない。
- 部会長：基本計画に掲載するパンチのある記載としては、「黒部米」が適切なのではないか。
- D委員：安心・安全を含め、良い米を作らなければならない。農協を通す米だけが全てではない。
- B委員：P70の「JGAP」については、現在は様々なものがあり、グローバルGAP・アジアGAP、ベーシックなどがある。Jを取って「GAP等」とすべきでないか。「HACCP」な

どといったものもある。

- 計画主任：黒部米の出荷については GAP を行っているが、思いとしては一步踏み込んだ品質の GAP が必要と考えており、J を付けたが、どう考えるか。
- B 委員：GAP にはランクがあり、JGAP は国内向けである。輸出を目指すのならばグローバル GAP などがあり、「GAP 等」としておけばよいのではないか。
- C 委員：昔は JGAP で良かったが、今はいくつかあるので、説明書きのところで、GAP の種類も記載すればよいのではないか。
- 計画主任：JGAP にこだわらず、高みを目指すという理念を記載したい。
- 部会長：林業で、国有林が多いのが黒部の特徴とあるが、森林組合は魚津なのではないか。
- B 委員：民有林があるから組合がある。管内に 4 つの森林組合が存在し、その下に生産組合がある。地元で対応できないことについて、森林組合が対応している。
- 計画主任：昭和 60 年頃に新川森林組合ができた経緯がある。現在は合併して 4 つとなっている。
- E 委員：J R 西日本「Japan Beauty Hokuriku」キャンペーンのなかでカニを活用している。黒部もカニで売り出すべき。ただ黒部はカニがとれるが PR する場がない。販売のイメージづくりが必要である。越前ガニや香箱カニなど、黒部でもどう活用するかを検討していくべきである。黒部にはパンフレットもない。素材を PR していくべき。
- 部会長：氷見にはカニがない。新湊にはある。新鮮さを売るということで、ベニズワイを売っている。ただし、黒部からかなり遠くへ行って捕っており、現在は 1 隻しかない。生産者が少なくなっていることと、富山のベニズワイの価値として、ズワイに対して、ベニズワイは 1/7 の価値である。せめて半分にした。生産者の数が少ないということは儲かっていないということである。関西はカニを商材として重視している。カニは集客力が大きく、黒部が考えているよりも価値がある。
- 計画主任：黒部の魚は、ベニズワイ、ヒラメ、キジハタであるが、ベニズワイガニは 10 年ほどまでにタグをつけて売り出した。当初は 3 隻いたので富山県内で一番多かったが、後継者不足で現在は 1 隻しかいない。これらの 3 種の品目は、しっかりとブランディングを進めていきたい。
- B 委員：これからはノドグロに続く高級魚を検討してかなければならない。
- 部会長：関西ではキジハタは高級魚として扱われる。もう少し大きく育ててから収穫するべきである。
- B 委員：P72 の最後、「地元産農林水産物の地産地消に努めましょう」のところは地元が選んで消費してくれ、などの具体的な表現とならないのか。また「道の駅開業に向けた野菜等の生産規模拡大」は手段であり、違う表現とならないか。もう少し分かりやすい表現とならないか。
- 部会長：農林水産業はどれも、国の補助がなければ成り立たない、儲けが出ない産業である。フィッシャリーナ周辺のまち歩きなども考えられるのではないか。
- A 委員：石田地区でも、少しずつ取り組みが進められている。

(2-2 工業の振興について)

- F委員：雇用確保が難しくなっており、機会を喪失しているケースもあり、現在の有効求人倍率は1.85となっている。市としてできることはないのか。
- 部会長：ハローワーク魚津が一番求人が高いと言われている。
- 計画主任：人口減少や少子化などが進む中、黒部市の魅力を高めることが必要であると認識している。市は昨年から就職定住した方への補助（15万円）や就職活動のための旅費の支援などを行っている。
- 部会長：スポーツイベントなどは良いPRとなる。
- F委員：企業において、次の世代が決まっていなかったケースが多くみられる。会社を継続させていく取り組みも必要である。欧州では、継承する場合は相続税が免除となる。
- A委員：近年は原材料費が高騰しており、利益を出すのが厳しくなりつつある。
- G委員：魚津市では「三太郎塾」として、魚津で事業している人で行うワークショップで、有磯海PAの活用などが検討されているなど、事業者が主体となった取り組みがある。黒部市でも進められないのか。
- 計画主任：異業種が交流していくことは大切なことである。第一次産業でも、経営感覚を農家に認識してもらうことが非常に重要と考えている。異業種交流は経営の多角化につながる。

(2-3 商業の振興)

- 部会長：黒部は人口の割には商業が弱いというイメージがある。魚津の人は金を使うが、黒部は金を使わないと言われている。

(2-4 観光の振興)

- B委員：道の駅に関して、農業の直売の話が出ているが、商業や工業、観光に関しては何もないのか。黒部市の産業（農林水産業以外）に関するPRはしないのか。
- F委員：道の駅は産業全てに関連するものである。
- 部会長：道の駅の進捗状況は。
- 産業経済部長：基本設計に着手している状況である。一方で用地買収なども交渉中であり、対象エリアの中でどう配置するのか、必要面積などを詰めている。黒部の道の駅は国交省から「重点道の駅」として指定されている。国交省や農水省の補助がどの程度もらえるのかも調整中である。道の駅の機能としては、トイレや情報発信以外に、地場産の直売所を設置する、またレストランを中に入れて食事もできる、農家にとっても今後の所得向上に繋がる、賑わいづくりや観光情報発信など、できるだけ黒部ならではの機能を持たせたいと考えている。ただ、何を売るのか、何を入れるのかは目途が立っていない。平成33年度のオープンに向け、施設の建設と有効活用を検討していかなければならない。そのような状況であるため、第2部会では内容の記載は少々難しい。
- F委員：平成33年のオープンか確定であるのに、総合計画に記載がないのはいかがなものか。道の駅に関しては、多くの市民が認知している。
- 事務局：施設については第3部会で記載している。活用については難しいとの答弁をさせていただいている。記載の可否については検討させていただきたい。

- 産業経済部長：2-1 で道の駅のことは記載できるかもしれない。ただ2-3や2-4では記載は難しい。
- 部会長：道の駅は産業全体の振興に寄与する、といった記載はできないのか。
- 産業経済部長：全体を俯瞰するためには、基本構想に位置づける必要があるが、既に議決されているため難しい。産業全体としては未定であるが、農業に関してならば確実に取り扱うと想定される。
- A委員：産業全体に関するページを追加すればよいのではないのか。
- C委員：P72のメッセージで「道の駅開業に向けた…」といった記載があるので、商業や工業に関するページにも付け加えられないのか。
- D委員：第3部会で扱っているのならば、道の駅の記載をなくしても良いのではないのか。
- 事務局：商業・工業分野の活用が定まっていない中では、記載は難しい。P70の中では記載できるかと思う。また、P78の「積極的な情報発信」の中で大まかな方向性を追記する形でよいか。
- 産業経済部長：今回が最後の部会であるため、修正後、部会メンバーでチェックをいただきたい。
- 委員一同：部会長に一任する。

閉会

- 事務局：以上をもって、第5回部会を閉会する。
- 第5回審議会全体会は、11月16日（木）午後2時より開催する。

以上